



## 「子どもたちの家」落成式

改めて 第一歩を歩み出しました。

去る11月3日（水）「子どもたちの家」の落成式！心配された雨も晴れ、式典には200名を超す方々が列席し祝ってくださいました。日本から来られた11名の方々、タンザニアのMさん、ウガンダの役員と懐かしい二人の顔。日本人会の会長さん、婦人部の役員の方々、JICA/NGO 担当者。地元ティカからは日本人の方々はもちろんのこと、地元住人のご支援者、NGO 関係者と子どもたち、児童局を始めとする行政府の方々、お招きした幾つかの小学校の生徒さんと先生方、ストリートのリハビリプログラムに通ってくる子どもたち等々。元ストリートの若者たちの姿もありました。中でもご病気で参加出来ないと言われていた支援者のAさんの顔を見た時は涙が出ました。「途中で帰るけれど、ひとことお祝いを言いたくて」とご親戚に付き添われながら来て下さったのです。お祝いのメッセージも多くの方々から頂きました。迎えるのはモヨの子どもたちと友人、スタッフ、ボランティアです。

予定より一時間遅れの午前11時、落成式が始まりました。オープニングのお祈りに続き、私の「Welcome Speech」とスタッフ・ゲストの紹介、モヨの子どもたちを代表してケヴィンの「Welcome Speech」。堂々とスピーチするケヴィンには感心しきりでした。その後、間に余興を挟みながら、ゲストのお祝いのスピーチが続きます。



私にとって身に余るお言葉もあり、身のすくむ思いもありましたが、どれもに励まされ、改めての一步に大きな力を頂きました。

繰り広げられる余興の中でもとりわけ受けたのが、浴衣姿の日本人の皆さんによる「炭坑節」！一回目は日本の方々、二回目はケニアの方々を巻き込んで二重、三重と輪が広がります。「炭坑節」が結ぶ日本とケニアの輪でした。また、新潟から来られたSさんの亡き友人に捧げるかのような「長持ち歌」は本当に見事で、アフリカの空に木霊しました。モヨの子どもたちのピアノ伴奏と歌、特殊学級の子どもたちの詩の朗読も心に残ります。ダンスあり、寸劇あり、美味しい昼食あり…と、書き出せば限りがありません。

正面のプレートには「モヨ・チルドレン・センター・ホーム・2010年11月3日（水）落成・このホームは日本とケニアの心ある人々に拠って、貧しい子どもたちの為に建設された。我々は縁あってここに集い巣立つ子どもたちの輝かしい、幸せな未来を祈る」の英文。そのプレートの序幕の後、皆様を建物内にご案内。ホールでキボコのご支援者手作りの大きなケーキをカット、参加者全員で頂きました。最後に役員のボビーの感謝の挨拶に続き、式典終了のお祈りをして全ての予定を終えたのは午後3時過ぎだったでしょうか。忘れられない一日になりました。

この「子どもたちの家」建設にご協力いただいた数え切れないほどの多くの方々にこの場をお借りして心からの感謝を捧げます。本当にありがとうございました。子どもたちは12月4日に新しいホームに移り、改めての第一歩を歩み始めています。私も思いを新たに、子どもたちに寄り添いつつ私なりの歩みをとっています。今後とも皆様のご支援を心よりお願い致します。

松下照美

# 「子どもたちの家」落成式

列席していただいた方々にも文章を寄せて頂きました。

## この日を待ち望んだ方々とでっかい乾杯！

踊りの説明をする櫻庭さん(右)

櫻庭美木



この日を待ち望んだみんなの心を象徴するかのように、真っ青に晴れ渡った空の下オープニングは始まった。行政関係を始めとする多くの団体や地元の方々、大学生(劇に食事の準備などに大活躍)近隣の学校からストリートの子どもたちまで、多彩な顔ぶれの

200名もの出席者にびっくり！一人ひとりのお祝いメッセージを聞きつつ、照美さんがこの地で地道にこつこつと積み上げて来られた血のにじむような努力、実績に胸がいっぱいになる。また、このアフリカの地に、こんなにも多くのモコを支えて下さる方々がいる事にも、熱い感動と安堵を覚えた私。

さて日本からはと言うと(チルドレンセンター代表の高塚氏による見事なあいさつに続いて)、我々は浴衣を着ての「炭坑節」を御披露。これが大いに受け、自らアンコールして再び登場。ケニアの人々を巻き込んで幾重もの輪を作り、共に踊って大いに楽しんで頂く。終わってからも、子ども達がまだやりたいと「掘ってえ掘ってえ」と踊る姿、人々のでっかい笑顔にオープニングを盛り上げるお役に立てたかしらとみんなで喜び合った。

(準備手順の大幅誤算、スタートや食事時刻の遅れ等々)多くのアフリカの困難を乗り越え、「子どもたちの家」建設とパーティーの大成功を作り上げた照美さんと支援者の皆さんにでっかい乾杯！！

## みんなの息が吹き込まれて「ホーム」へ

ボランティア KF

オープニングセレモニー当日、来場された方々に感想を伺ってみました。「2階建ての構想から始まり、紆余曲折ありましたが、とうとうこの日が来たのですね」と感慨深そうに答えられた、日本からいらっしゃったサポーターの方や、「本当に立派な家が建ちましたね」「ケニアと日本がひとつになった様な、素晴らしいオープニングセレモニーですね」と話される地元ティカの方々もいらっしゃいました。このお話から、そして当日の設備や、たくさんの方々が集まったことなどからも、松下さんの長きに渡るご尽力と人脈の広さ・深さを改めて実感しました。ストリートから様子を見に来た子どもにも少し感想を聞いてみましたが、「お腹空いたー。今日のセレモニーでランチもらえるかな？」と、まあ何とも現実的な逆質問を受けたことは、さて置くとして…。

直前までは「建設現場」だった真新しい家も、ビジターの方々が宿泊された事によって息が吹き込まれて一気に生活感が出、そして今後は子ども達によってますます息が吹き込まれて「ホーム」になってゆくところを見るのがとても楽しみです。松下さん、そして支える会の皆様の長年の夢であったニューホームの完成に立ち会うことが出来た幸運に、感動と感謝の気持ちでいっぱいです。

## 落成式を迎えて

MCC支える会代表 高塚政生



松下照美さんとウガンダで出会ってから、十五年程が経ちました。今年の夏頃になって、「子どもたちの家」が落成すると知らせがあり、何年ぶりにケニアを訪問することとなりました。家を見せて頂き、やっとここまで来たかと感慨に耽りました。その間、ドキュメンタリー映画「チョコラ」をご覧いただくと解りますように、いろいろな子どもたちの人生が巡っていました。更に、ここを利用しなければならぬ子どもたちは、世界の分配の公正が確保されない限り、次々と産まれてくることでしょう。全て子どもへの支援は勿論できないことですが、照美さんと縁の会った子どもたちだけでも将来に夢のある暮らしをして欲しいものです。支える会としては、今後は、運営費・修繕費等への協力が重要となります。ご協力宜しくお願い致します。

## ナイロビマラソン全員完走！

恒例になったモヨのナイロビマラソン・チャリティ・ラン、今年は10月31日（日）開催、走者総勢26名という今までにない大所帯でした。中でも特筆すべきは、7名の走者と5名の応援団という日本人参加者の多さと、2名の42キロ完走者！

当日はマタツ2台で早朝5時過ぎにティカを出発し、まだ暗がりの中、一路ナイロビへ。時間内に競技場に到着。手続きも順調に進みいよいよスタートです。最初に出発する42キロ組を見送り、21キロ、10キロ、4キロと出発します。私は10キロ組だったので、21キロを見送った後10キロの出発地点へ。そこは去年ほどの混雑も無く、比較的スムーズなスタート。コースは去年と同じ、ナイロビ中心街をクネクネと走ります。スタート直前になって、「チョコラ！」に出演したアンドリューが突然現れ、「僕のゼッケンは？」と聞きます。彼の属するNGOから返事がなくて登録していなかったため、慌てて私のゼッケンを付けさせ、私はゼッケン無しで走ることにしました。

去年と同じコースでもあり、周りのことがよく見えます。21キロ組の皆とすれ違いながらエールを送り合います。ゴール近く、4キロ組のリチャードとマイナがいました。「あんたたちここで何してんの?!」「早く走り過ぎてお腹が痛くなったから休んでた。」との答え。



モヨチーム記念撮影

「もう大丈夫?」「うん、」「ジョセは?」「あっち。」見るとスタート地点に近いところでジョセが泣きべそをかいています。「ジョセ!」と呼ぶと慌ててこちらに走って来ました。そこで、4人で手を繋ぎながらのゴール!はたしてジョセが完走したのか、それとも皆に置いてきぼりにされてそこで待っていたのか真相はわかりません。でもまあ細かいことは言わずに「全員完走」と言わせて貰って良いですよ。

全盲のデヴィッドはヒデオさんと手首を紐で結び合っただけの完走です。ヒデオさんによると、デヴィッドはスポーツをやっていたと言うだけあって、とても力強い走りだったそうです。10キロ組も全員完走したところで、スタジアムのスタンドに席を移し、用意したスナックやお弁当を皆で食べながら、21キロ組の残りや42キロ組を待つことにしました。アユミさん、マーシー、ピーターとゴールし、これで21キロ組も全員完走!彼たちの胸のメダルがひととき輝くようでした。後は42キロ組のムイガイとゾウさんを待つばかり。

あっ! ムイガイ(22才・元ストリートボーイ・現在自転車タクシー自営・例年モヨで走る)が見えてきました!彼もフルは初挑戦。誇らかに両手を高々と上げて皆の声援に応えます。時間は3時間半余り、よく頑張りました。残るはゾウさん!51才でフルマラソン初挑戦?!しかも1900メートルの高地です。1週間前にティカ入りしたものの忙しく、ほとんど走れないままの出場です。制限時間の5時間も近くなり、気を揉む応援団。その時「ゾウだ!ゾウだ!」の子どもたちの声!皆総立ちになります!ゾウさんは私たちに気付き大きく両手を上げます!何人かはゴールに走ります。大きく手を振りながら私たちの前をゴールに向かってゆっくと走るゾウさん。遂にゴール!時間は4時間50分!5時間を切って、公式に認められる堂々の完走!でした。

走者の皆様、お疲れ様でした!そして最後になりましたが、スポンサーになってくださった皆様、ありがとうございました。皆様からのご厚志、大切に大切に使わせて頂きます。また今後も「ご苦労様でした」スポンサーを受け付けています。よろしくご協力をお願い致します。

松下

### 素晴らしく、楽しかった ナイロビマラソン初参加

スタッフ・デヴィッド(34歳・全盲)



私は小学校、高校と盲学校へ行ったのですが、元々スポーツが好きでした。高校時代には盲人高校生の大会で100メートル9秒少し?で全国2位になったこともあります。1998年のパラリンピックケニア全国大会では伴走者と共に1000メートルを走りました。伴走者と手首を軟らかい紐で結んで走るのです。ちなみに盲人の場合短距離はゴールで鳴らすベルの音を頼りに伴走者無しで走ります。今回のマラソンでは、日本から来られた櫻庭英雄さんに伴走して頂きました。彼は盲人の伴走は初めてだったそうですが、とても良い伴走者でした。私が疲れたと感じるとスピードを落とし、ゴール近くなると「もう少しですよ」と励ましてくれました。今回の経験は本当に素晴らしく、楽しかったです。櫻庭さんありがとうございました!来年は10キロに挑戦したいと思っています。

聞き書き松下



# 映画「チョコラ！」を 子どもたちに届けて 監督・小林茂

4年ぶりにケニアを再訪した。新潟県長岡市から私（コバ）、小林真人（映写）、大久保茂。札幌からカメラマンの吉田泰三（ゾウ）である。10月末のナイロビマラソン。大久保さんは10キロ、ゾウさんはフルマラソンを完走。また、「子どもたちの家」の完成式では、大久保さんの日本民謡「長持ち唄」がケニアの空に響き渡った。

「コバとゾウがもどってきた」という情報が伝わり、その家で何回も「チョコラ！」上映会を開いた。メタルを拾うグループが大勢かけつけてくれた上映会は、大騒ぎだった。しかし、個々の内面を映し出す場面では、静かに見守った。もう、彼らは大人であった。

自転車タクシーをしているマイガイは、なんと、結婚して子どももいた。「映画を見て苦しい時代を思い出した。でも、あの頃の気持ちを忘れてはいけなと思った」と彼は言った。

父親との確執を描いたアンドリュー（18）もしっかり見てくれた。今は小学校6年生（ケニアは8年制）。別れ際「今日は家に帰る」と彼はポツリと言った。



再会した子どもたちと。左からコバ、ゾウ、右からマヒト、テル、中央、大久保。撮影：MAHITO

エイズ感染を公表して映画に出てくれたルーシーさん（30歳）。「ケニアでも上映はOKよ。エイズを抱えながらも働いて子育てしていることを知ってほしい」。毅然とした言葉だった。

私は現地で透析をしながらの旅だった。思春期から青年期へ移行する4年の歳月の重みを感じるとともに、この映画がケニアで新たなスタートラインに立ったという思いを強く持った。最後にこの旅を支えてくれた目黒秀平さんに謝意を表す。

**「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集**

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000円	20,000円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000円	3,000円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

■経過報告（2010年11月30日現在）  
 正会員：日本133名（7名増・内3名は賛助会員から移行）・ケニア1名 計133名  
 賛助会員：日本260名（3名減・正会員へ移行）  
 特別会員：日本38名・ケニア3名（1名増）計41名  
 法人会員：6社・グループ7（1グループ増）  
 総会員数：個人434名・法人6社・グループ7

■「支える会」よりお願い  
 郵便振替用紙を同封させて頂きました。通信欄に、会員番号、送金の趣旨（〇〇年会費・無指定寄付・〇〇指定寄付）等をご記入ください。皆様のご協力を心よりお願い致します。

■「支える会」会費 / 寄付受付先  
 口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会  
 代表者：高塚政生※郵便振替口座番号：01660-1-73996

■お知らせ  
 ケニアがリアルタイムで伝わる松下照美のブログ更新中です。  
 HP からアクセスしてください。http://moyo.jp/

**モヨ・チルドレン・センターの歩み**  
 1997年11月 ■ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナルに登録の申請書類提出。  
 1999年9月 ■ケニア政府より国際NGOとして「モヨ・ホーム」が正式に認可・登録される。  
 2000年10月 ■ティカにて、本格的に活動開始。  
 2001年5月 ■「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。  
 2004年4月 ■「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

●モヨ・チルドレン・センター  
 ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006  
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA  
 TEL：254(ケニアの国際番号)-020-2121356  
 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke  
 ●モヨ・チルドレン・センターを支える会  
 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林1785-1 高塚政生方  
 TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632  
 E-MAIL / tmasao@d1.dion.ne.jp  
 ●モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部  
 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1916 青木康子  
 TEL/FAX：044-433-3447

編集後記  
 ◎今年も後僅か。皆様のお陰で「子どもたちの家」落成という大きな仕事を終えることが出来ました。新しい家で新年を迎える子どもたちは幸せです。新しい年が皆様にとっても良い年になりますように。今後ともよろしくお祈りします。(テル)  
 ◎ナイロビマラソン・落成式・引越しその他諸々のプログラムや出来事をバワフル且つアグレッシブにこなされてゆく松下さんには脱帽の日々です!!(KF)  
 ◎「子どもたちの家」落成おめでとうございます。今後は様々な活動の拠点となり、また心の拠り所となること必至ですね。(英)